

福岡市学校施設長寿命化計画【概要版】

1. 概要

(1) 背景・目的

本編P 1 参照

学校施設は、施設全体の約8割が築30年以上経過していること等から、老朽化対策が求められており、多額の事業費が必要な状態となっています。

こうした状況の中、国は平成25年に「インフラ長寿命化基本計画」を策定するとともに、各教育委員会に対して、令和2年度までのできるだけ早い時期に学校施設に係る長寿命化計画（個別施設計画）を策定することを求めています。また、令和3年度以降の交付金事業について、個別施設計画の策定を事業申請の前提条件とすることが検討されています。

本計画は、子どもたちが安心して学ぶことができる教育環境を確保するため、学校施設の老朽化対策と教育環境の質的改善を併せて実施する長寿命化により、コストの縮減と財政負担の平準化を図りつつ、計画的に改修・建替えを実施することを目的として策定します。

(2) 計画の位置づけ

本編P 2 参照

本計画は、公共施設等総合管理計画である「福岡市アセットマネジメント基本方針」に基づく個別施設計画として位置づけられます。

(3) 計画期間

本編P 3 参照

令和2年度から令和31年度までの30年間とします。

(4) 対象施設

本編P 3 参照

福岡市が保有する学校施設（小学校145校、中学校69校、高等学校4校、特別支援学校8校）のうち、200㎡以上の建物（約156万㎡）を対象とします。

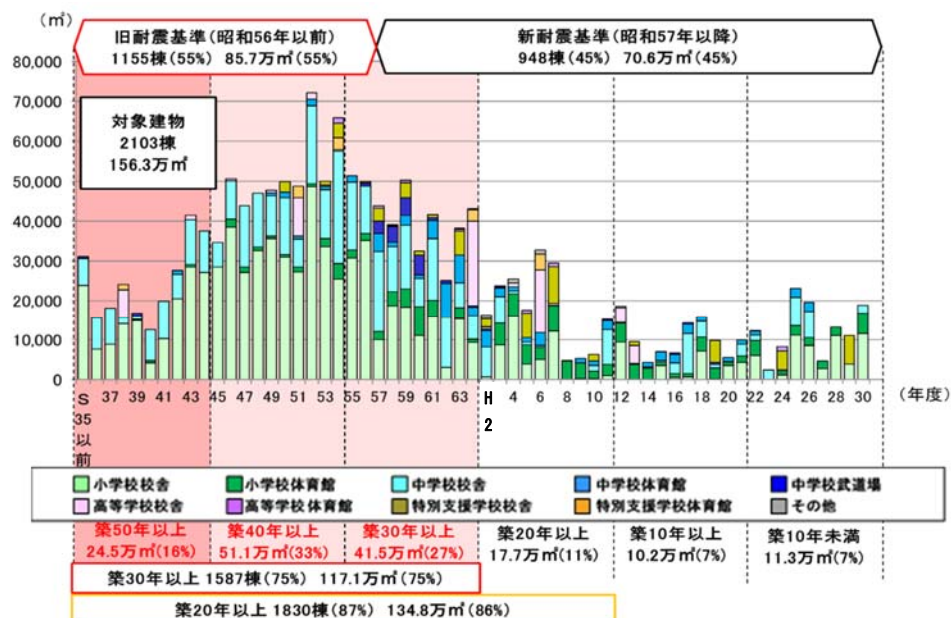


図1. 築年別整備状況図

2. 学校施設の目指すべき姿

本編P 9 参照

- ①安心・安全な教育環境の確保…老朽化対策，防災機能強化等
- ②学習・生活環境の質的向上 … ICT環境整備，トイレ洋式化，バリアフリー化，断熱性向上，省エネルギー化，木材利用等
- ③計画的・効率的な施設整備 … 予防保全，長寿命化，学校規模適正化，施設保有総量削減等

3. 学校施設整備の基本的な方針

(1) 目標使用年数と改修周期

本編 P10 参照

これまで、目標使用年数を築 60 年に設定し、築 30 年で大規模改造を実施してきました。今後は、築 20 年、40 年、60 年に必要な改修を行い、予防保全の取組みの強化と機能を向上することで目標使用年数を築 80 年とし、子どもたちが安心して学ぶことができる教育環境を確保します。

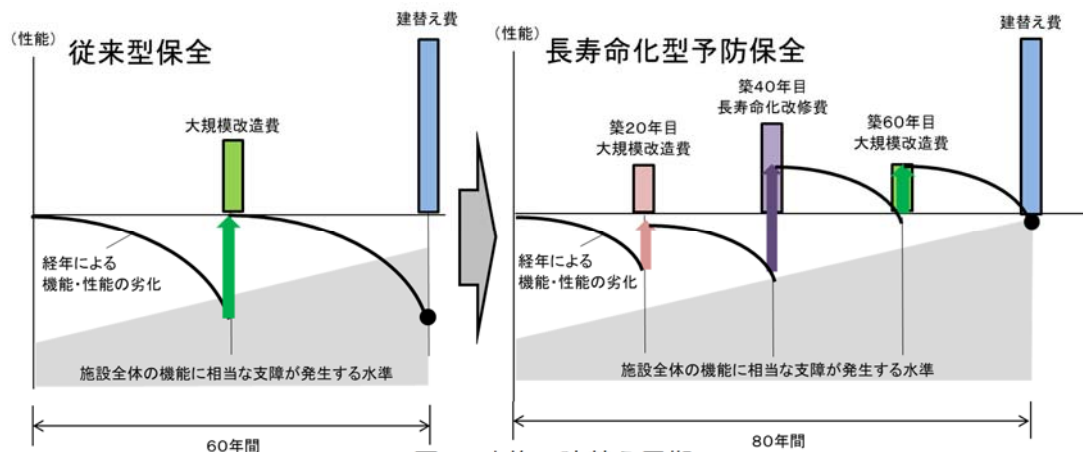


図 2. 改修・建替え周期

(2) 将来の維持管理コストの見通し（長寿命化の効果）

本編 P15 参照

長寿命化型予防保全を実施し、目標使用年数を 80 年とすることで、従来型保全と比べ 30 年間の年平均費用を、約 18% (年間約 50 億円) 削減する効果があります。

表 1. 30 年間の将来コストの比較表

(億円)

	長寿命化型予防保全				従来型保全	長寿命化の 効果 ②-①	過去 5 年平均
	大規模改造 長寿命化改修	建替え	学校施設 関連経費	合計①	合計②		
30 年間 事業費	約 3,020	約 1,390	約 2,230	約 6,640	約 8,120	約 1,480 (約 18%)	—
年平均 費用	約 101	約 46	約 74	約 221	約 271	約 50 (約 18%)	約 166

※上表は、築年数などから機械的に試算したものであり、今後の社会経済状況の変化などにより変動する可能性があります。

(3) 建替えの判別

本編 P18 参照

築 60 年を迎える対象施設は、躯体の詳細な調査に加えて、教育環境や経済性などの観点から総合的に「長寿命化」か「建替え」の判別を行います。

4. 今後の課題

本編 P20 参照

長寿命化計画を継続的に運用していくために、将来の年少人口の減少などをふまえ、小規模校における学校規模の適正化を推進するとともに、施設規模の縮減や建替え時期の平準化について、検討していきます。